

令和5年度農作物病害虫発生予察技術資料第3号

令和6年(2024年)2月21日
山口県病害虫防除所

コムギ黄斑病の発生状況と防除対策

現在、県内数か所でコムギ黄斑病の発生が確認されています。早い時期に病斑が上位葉に進展することで被害の拡大が懸念されることから、防除対策の徹底をお願いします。

1 防除対策

本病は、発病初期には、葉に黄褐色、楕円形の小斑点が生じ、次第に拡大して灰褐色、不定形の大型病斑となる（写真1、2）。

そのため、ほ場をよく観察し、これらの症状を確認した場合は、赤かび病等の防除を待つことなく、すみやかにアミスター20フロアブル等を散布する（表参照）。

2 防除上の留意事項

(1) 本病が上位葉に進展（写真3）すると減収や品質低下につながるため、発病初期の防除を徹底する。

(2) 本病は、品種により発病程度に違いがあり、「せときらら」では発病程度が高いので注意する。

なお、小麦でのみ発生し大麦では発生しない。

(3) 畑地作物の連作ほ場では本病の発生が多いので、発生状況をよく確認する。

表 コムギ黄斑病登録農薬

薬剤名	FRACコード	希釈倍数・散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法
アミスター20フロアブル (アゾキシストロビン)	11	2000倍,100~200リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
チルト乳剤25 (プロピコナゾール)	3	1000倍,60~150リットル/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布
ワークアップフロアブル (メコナゾール)	3	2000倍,60~150リットル/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布
		500倍,25リットル/10a			散布 【ブームスプレーヤー】
		10~16倍,0.8リットル/10a			無人航空機による散布

注)ブームスプレーヤーは、少量散布に適したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置が装備されていること。

3 その他

「せときらら」を栽培する場合は、水稻との輪作を計画的に行うことが重要である。輪作の実施が困難な場合は、小麦収穫後、夏期の代かき湛水や早期に耕起を行うなどして、前作残さの分解促進を図ると発生抑制に効果が期待できる。



写真1 コムギ黄斑病発生株



写真2 コムギ黄斑病の病斑
○部位に病斑が確認できる



写真3
コムギ黄斑病の病斑が上位葉に
進展した状況